



no.1

CAR DESIGNER

# カーデザイナー



PROFILE

後藤 純さん (49歳)

ごとう・じゅん

株式会社本田技術研究所  
オートモービルセンター

デザイン室 PDスタジオ主任研究員

東京コミュニケーション専門学校  
自動車デザイン科 卒業

「頭で考えて絵を描いてもなかなかいいものができない」と後藤さん。  
かなえないクルマのイメージを考へつくして、  
「無意識に手が動き出したとき、ふっといいデザインが生まれてくるんですよ」

クルマをデザインするだけでなく、  
乗る人の「喜び」や  
「幸せ」を創造する

## コンセプトから完成までの “クルマデザイン”司令塔

カーデザインとは、クルマの形を生み出す仕事。確かにそのとおりなのですが、形を考える作業は、デザインという仕事のプロセスの一つにすぎません。

僕たちカーデザイナーの仕事は、コンセプト作りから始まります。まず、**クルマを通じてお客さまにどのような喜びや幸せを提供するのか、クルマの「価値」を考えていきます。次に、その価値を実現するための方法、例えば車内空間のあり方や必要な技術などを決めていきます。**デザインとは、こうしたコンセプトを形にしたものです。だからコンセプト作りもカーデザイナーにとって大事な仕事であり、長い時間をかけています。さらに、生産工程にもデザイナーは関わります。自分が思い描いたデザインのまままで量産できるのか、工場にも足を運んでチェックし、最後まで責任を持って見ていきます。

2016年に発売されたスーパースポーツカー「NSX」のデザインも、コンセプト作りから始めました。世の中にある多種多様なスポーツカーの中で、「NSX」だけが持つ価値とは何か。技術的な特徴でいうと「電気モーターとガソリンエンジンの2つを搭載したハイブリッドのスポーツカー」であるということ。電気モーター駆動による無音の走り、ガソリンエンジンのスポーツカーらしい**獷猛さ**。矛盾するような2つの価値を併せ持つキャラクターを表現するデザインを模索しました。



2016年に発売されたスーパースポーツカー「NSX」は、世界中のホンダのデザインスタジオから集まった複数のデザインの中から後藤さんの案が採用された。上が開発前に描かれた後藤さんのデザイン画。下が完成した「NSX」。デザインコンセプトがしっかり製品に反映されるよう、工場での生産工程まで責任を持つ

## 世界のカーデザイナーの中から 選ばれた「NSX」デザイン

「NSX」のデザインは、世界中のカーデザイナー10数人から提案されたデザイン案の中で競われました。自分の案が選ばれたときは、うれしいというより安堵の気持ちです。何とかスタート地点に立ったというだけです。「やった!」とはなりません。詳細なデザインはその後、複数名のチームで進めていきます。デザインを実車製作に落とし込んでいくと、例えば「車高が低くて乗りづらい」といった問題点も出てきます。デザインに影響の出るエンジンの配置を技術者と議論を重ねることも多くありました。**自分が思い描いたデザインを、世に送り出せる製品に作り上げる過程は、まさに「育てていく」という感覚ですね。**

**デザインしたクルマに乗られたお客さまが喜ぶ姿を見ることが、一番うれしい瞬間です。**初めてデザインを手がけたのは「ストリーム」というクルマ。コンパクトでありながら7人乗ることができ、家族みんなが楽しめるクルマを想定して作ったものです。発売されたその頃、僕はドイツに駐在していました。「ストリーム」に乗ってパリに向かう道を走っていると、同じクルマが前を走っていたので横に並んでみたら、フランス人の家族が笑顔で手を振ってくれた。僕のデザインしたクルマで、思い描いたとおりの家族の幸せな時間を過ごしている。デザインの仕事を始めてから得た、最初の大きな感動でした。この感動を求めて、自分はクルマのデザインを続けているのだと思います。

カーデザイナー

# 後藤さんの学びと仕事の経験



今の仕事を選んだ理由

子どもの頃から  
クルマと絵が大好きだった

クルマ好きの父の影響で、僕も昔からクルマが大好き。「幼稚園の頃のお前は、走っているクルマの車種を全部言い当てた」と父が言っていました。絵も好きでしたね。学校で写生大会があると風景ではなく、駐車場へ行って先生たちのクルマを描いていました。卒業文集でも「一番絵がうまい同級生ランキング」の1位で、それなりの自信はありました。高校3年の夏、雑誌で人気のクルマの開発ストーリーを読み、掲載されていたデザイン画を見たときに感動して、「将来はこんな仕事をしたい!」と思った。それがカーデザイナーを目指す大きなきっかけとなりました。

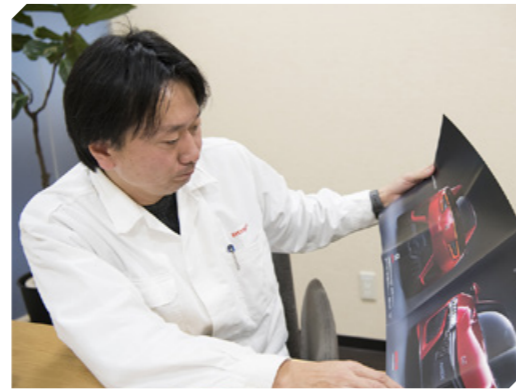


進路選びのポイント

周りに流されず  
自分の道を自分で決めた

高校は山形県内で2番目の進学校でした。両親は私に医者への道に進むことを望んでいて、同級生もみんな大学に進学します。周りはカーデザイナーなんて夢の話とと思っていましたが、僕はすぐにその勉強がしたかったので自分でカーデザインを学べる専門学校を調べることに。東京に行って専門学校の体験入学に参加し、出会ったのが僕の恩師であるホンダの元カーデザイナー・藤村敬直先生。僕の絵をすごく褒めてくれて、自分の才能を認めてくれた先生を信じ、ここで学ぼうと決断。その後、両親や先生を説得して、この専門学校へ進学することができました。

HE CONTINUES CHASING A DREAM.



## 専門学校が教えてくれたこと

自分を律して努力し続けることの大切さを学んだ4年間

専門学校では、活躍中のカーデザイナーの指導や、仕事現場の話聞く機会がとても多く、プロレベルのデザインを知ることができました。プロの心構えを学べたことも大きかったですね。恩師には、最初の授業でいきなり「自主的に頑張らないと生き残れないからね」と言われました。逆に考えれば、向上心を忘れなければ認められる世界。夢中で勉強しました。3年次にはドイツのメルセデス・ベンツへ1年間のインターン留学。自分のアイデンティティを見つける貴重な経験となり、日本人の自分だからこそ提供できる価値は何だろうと、あらためて日本の文化も勉強しました。常に成長を目指す姿勢を身に付けたことが、今も仕事の支えとなっています。

SPECIAL FOUR YEARS



## 私の選択

